



## 2015 年度秋季大会実施報告

大会・企画委員会, LOC

### 秋季大会実施報告 (大会・企画委員会)

2015 年度秋季大会は、神戸市の神戸国際会議場において、10月26日(月)～28日(水)に開催され、825名(会員651名、非会員等174名)の参加がありました。プログラム確定後の講演発表数は口頭246件(うち招待講演13件)、ポスター215件の合計461件で、このうちポスター発表2件がキャンセルされました。そのほか、若手学術奨励賞受賞者3名による記念講演がありました。

特別セッションの募集を行ったところ1件の応募があり、「地殻活動ビッグデータが拓く新世界」として企画しました。また、大会・企画委員会からは特別セッションとして「阪神・淡路大震災から20年を迎えた地震研究の到達点と課題」と「2015年5月30日小笠原諸島西方沖の深発地震」を企画しました。

昨年度同様、講演申し込み、予稿原稿アップロード、事前参加登録と参加登録料及び投稿料の支払いは、ウェブサイト上で受け付けました。事前参加登録済みかつ年会費納入済みの会員には、予稿集と共に名札と領収書を事前送付し、当日は大会受付を通らずに入場できるようにしました。

受け付けた講演申し込み461件のなかには、予稿原稿の書式が守られていないものや、手続き上の不備などがありましたが、いずれも委員会からの指摘に対して著者から予稿等が適切に修正されました。受け付けたすべての講演申し込みが採択されました。

今年度は、大会1日目の午後に、若手学術奨励賞受賞者3名による記念講演を設けました。大会3日目の昼休みには、理事会で議論されている案件についての説明会を理事会主催で開催しました。大会3日間ともに4会場平行で口頭発表のセッション(若手学術奨励賞記念講演を除く)を、大会初日と2日目の夕方、3日目の午前にポスター発表のコアタイムを設けました。なお、通常的口頭発表の時間は1件あたり15分(講演12分、質疑3分)としました。

今年度も、学生による優れた研究発表を奨励し、研究発表技術の向上を目的とした「学生優秀発表賞」の審査をしました。口頭発表とポスター発表のどちらも対象です。本年度の審査員には理事、代議員、大会・企画委員会から25名が選出され、77名80件の発表を審査しました。選考結果と受賞者については、本ニュースレターNL-5-6ペー

ジに発表されています。

秋季大会の準備、運営面では、神戸大学を中心とする地震学会員からなるLOCの皆様に全面的にお世話になりました。LOCの皆様の献身的なご尽力により、神戸大会が円滑に運営されたことに、大会・企画委員会から心よりお礼を申し上げます。大会の経費については、中内力コンベンション振興財団と神戸国際観光コンベンション協会の助成を受けています。

さて、来年度の秋季大会は名古屋国際会議場において、2016年10月5日(水)～7日(金)の日程で開催される予定です。LOCは名古屋大学にお引き受けいただいています。今年度に引き続き、会員の皆様の積極的な投稿・参加を期待しております。

最後になりましたが、各セッションの座長および学生優秀発表賞の審査員をお引き受けくださった皆様のご協力に感謝申し上げます。

### LOCからの報告 (LOC)

2015 年度秋季大会(神戸大会)は神戸大学を中心とする学会員がLOCを務めさせて頂きました。2012年の連合大会の折、地震学会会長と大会・企画委員会委員長から1995年の兵庫県南部地震から20年になるので、ぜひ2015年の秋季大会のLOCを引き受けてほしい、との依頼がありました。当時、神戸の学会員も少なかったことから、一旦持ち帰って、会員間で議論し、会員が少ないことを踏まえて、1) これまで地震学会の開催でサポート実績のある(株)アカデミック・ブレインズ(AB社)への一部業務委託、2) 会場スタッフの支援も得られる神戸国際会議場のような大学以外の施設での開催、3) 託児担当の受益者負担、4) LOCメンバーが何らかの理由で抜けたときの大会・企画委員会からの人員補充、等の条件付きでLOCを受諾することとし、大会・企画委員会です承させて頂きました。それから、神戸国際会議場に予約の電話を入れましたが、既に多くの日程が埋まってしまっており、唯一、日～水の4日間が連続して予約できる10月下旬の開催としました。その後、大会・企画委員会で、静岡大会のLOCで活躍された林能成氏が2014年度よりLOCメンバーに加入することを決定頂き、大変心強く思ったものでした。神戸国際会議場のレンタル料は高額で、また、業務委託も行うということで、大幅な赤字が見込まれたため、支出の削減と収入の増加が大きな課題となりました。支出削減のため、当初、神戸国際会議場で開催を予定していた一般公開セミナーを兵庫県民会館に変更したり、秋季大会で使用する部屋と時間帯を限定したりしました。また、助成金の申請先を探し、中内力コンベンション振興財団と神戸国際観光コンベンション協会へ申請し、両者合わせて130万円

余りの助成金を頂けることになりました。また、会員の皆様に、参加登録料の増額を了承して頂くことを理事会で承認して頂きました。このような対応により、秋季大会開催前の時点では、赤字がほぼ解消できる見込みにまで至りました。

秋季大会では、口頭発表・ポスター発表・団体企業展示のすべての会場が分散することなく、コンパクトにまとまり、参加者の利便性が図れました。懇親会では、兵庫県の防災監と神戸市の危機管理監を来賓としてお招きし、また、神戸の夜景をお楽しみ頂ける会場を用意し、好評頂きました。

今回のLOCの仕事に関しては、一人何役もこなさなければならず、皆、手一杯の状態でした。上記のような条件付きの開催でなければ、到底我々だけではLOCは務められなかっただろうと思います。今後も秋季大会を地方で開催していくのであれば、例えば、学会内に大会・企画委員会を拡大したような委員会を設置して頂き、プログラム編成のみならず、一般公開セミナーを含む秋季大会の実施・運営をサポートしていく体制を整えて頂くことを希望します。

最後になりましたが、神戸国際会議場、及びAB社のスタッフにも支えられ、大きなトラブルもなく、秋季大会を終えることができました。ただ、3日目の午後になって、Wi-Fiが繋がりにくかったといったことを耳にし、参加者の皆様にご迷惑をおかけしましたことを心よりお詫び申し上げます。大会に参加して下さいました方々、開催にあたってご支援頂いたすべての関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

#### 一般公開セミナー報告 (LOC)

秋季大会に先立つ10月25日(日)には、兵庫県民会館において、市民向けの「一般公開セミナー」ならびに学校の教員向けの「地震を教える教材紹介」、親子向けの「地震の教室」を開催しました。

一般公開セミナーでは、鳥取大学の香川敬生教授と朝日新聞の黒沢大陸編集委員が講演を行い、阪神・淡路大震災から20年間の地震学の発展と残された課題についての話題を提供しました。講演では、この震災を契機に大規模な

観測網や巨大な実験装置が整備されたことや、地震動予測の高度化に地震学の知見が応用され、それが建築や土木分野での活用にも広がったことなどが紹介されました。講演後にはパネルディスカッションが行われ、地震防災を着実に進めるための方策や、地震予知の可能性などについて活発な討議がなされました。

一方、地震を教える教材紹介では、学校教育委員会の現役教員が中心となって、小中高の授業ですぐに使える地震についての教材が多数実演されました。地元の神戸新聞に事前に掲載されたこともあり、多くの教員の方に参加いただきました。また、親と子の防災教室では、昨年に引き続き100円ショップなどで入手可能な簡単な材料を用いて「揺らすと光る地震計」を自作するコーナーが開設されました。

なお、この企画は「ひょうご安全の日推進事業」の助成を受けて行われました。



#### 大会プログラムの修正 (大会・企画委員会)

○発表のキャンセル

S09-P25 海洋プレート内地震の発生頻度と海底年代の関係およびその発生メカニズムの考察

# 上山和也・深畑幸俊 (京大防災研)

S14-P03 最大瞬間風速からの地震予知(9) —2015年小笠原諸島西方沖地震の予知—

# 猿渡隆夫 (なし)